浜松市楽器博物館

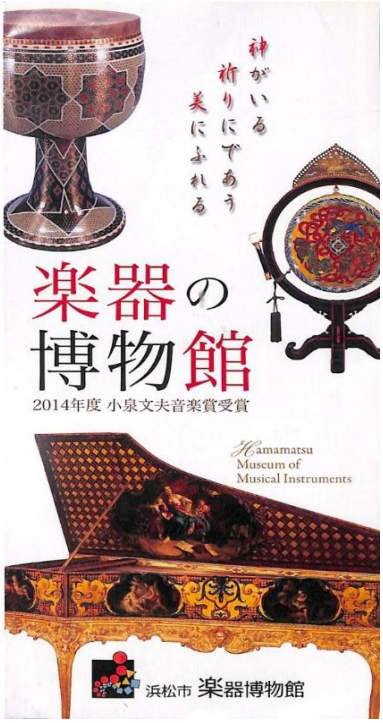
2025.03.20

FY08

全16P

平成7年（1995年）4月に浜松市が開設した、日本で唯一の公立楽器博物館です。
世界の楽器1300点を展示して、人と楽器、人と音楽の絆を紹介しています。
また、ヤマハやカワイなどがリードオルガンを数多く生産し、世界的**楽器**メーカーが
本社を置く**浜松**市が「音楽の街づくり」の一環として設立しました。…

世界の楽器が展示されている博物館ということで、見学してきました。
見学していくうちに、収集の多さ、楽器ごとの歴史紹介などなどきっちりと整理されおり、本当に見事で時間を忘れて見入ってしまいました。ある部屋では実際に実演奏も体験でき、バンドの練習も行われていました。
写真を整理して見やすくしようと思いましたが、あまりの写真の量で断念し思いつくまま貼り付けました。

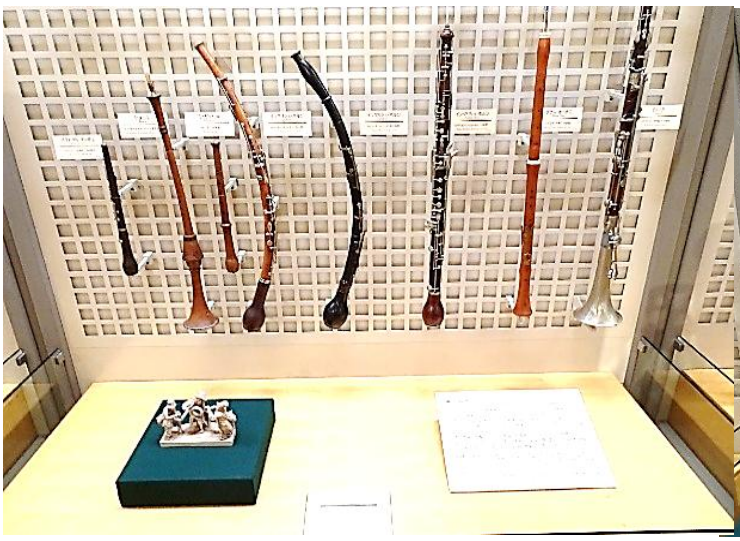


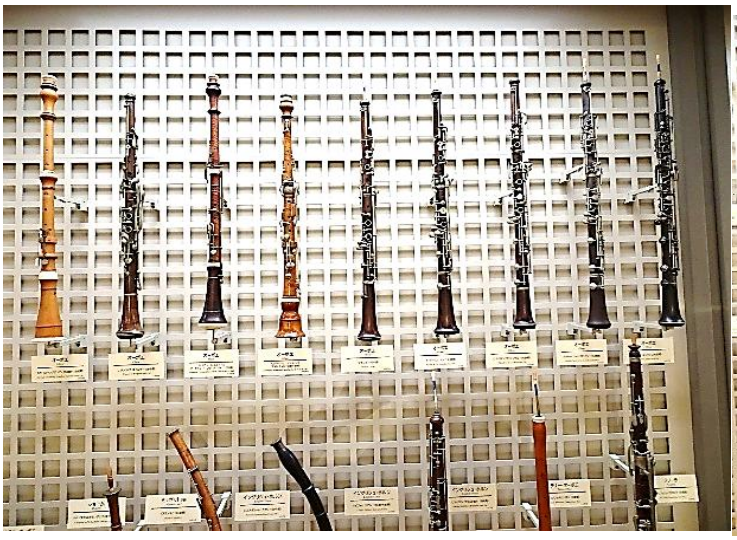
展示場に入って直ぐ目に飛び込んできたのは、この豪華絢爛な演奏装置で、実演風景がモニターに映し出されており度肝を抜かれます。――インドネシアだと思います。多分

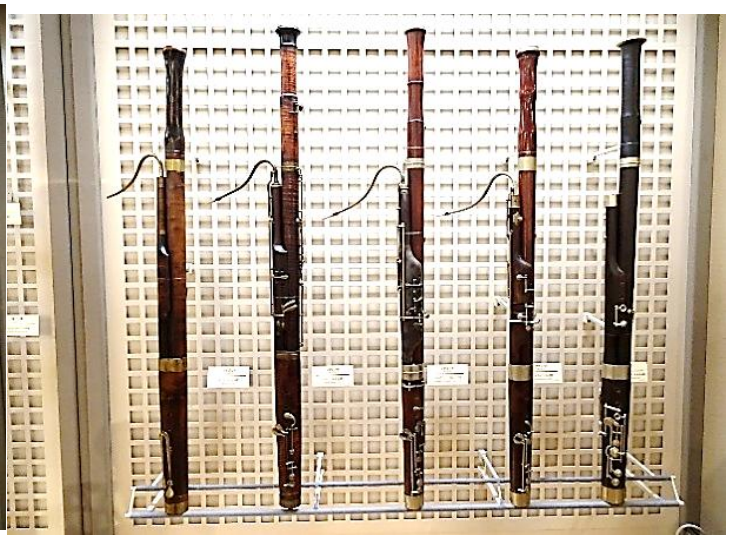
65

アフリカ
Africa
48

47







Johann Christoph Denner

トーキング・ドラム／トーキング・フルート

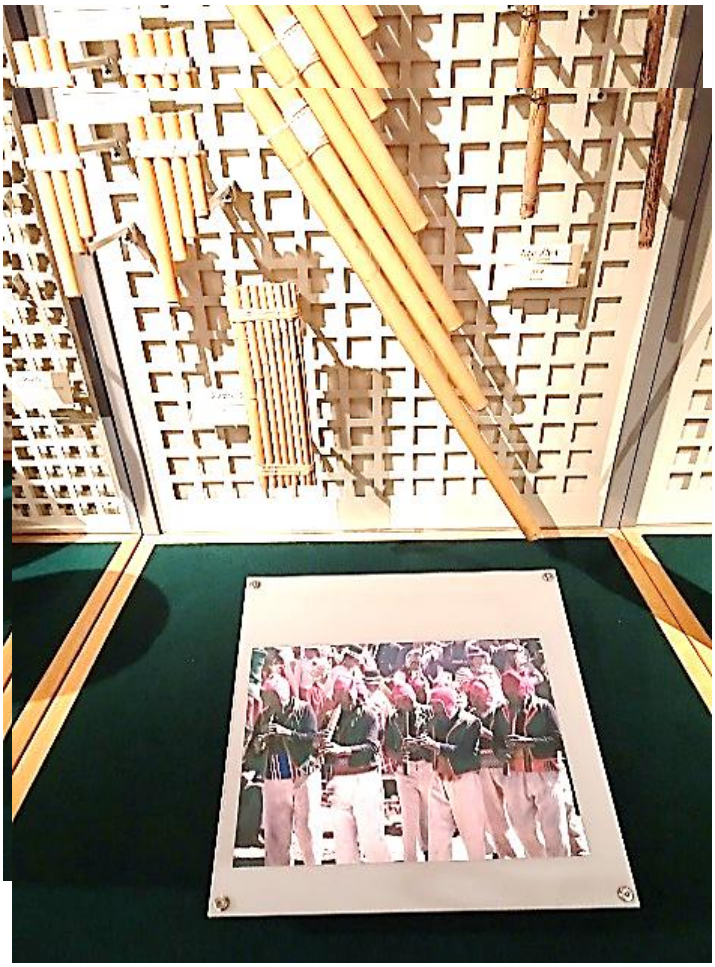
ウォーター・ドラム

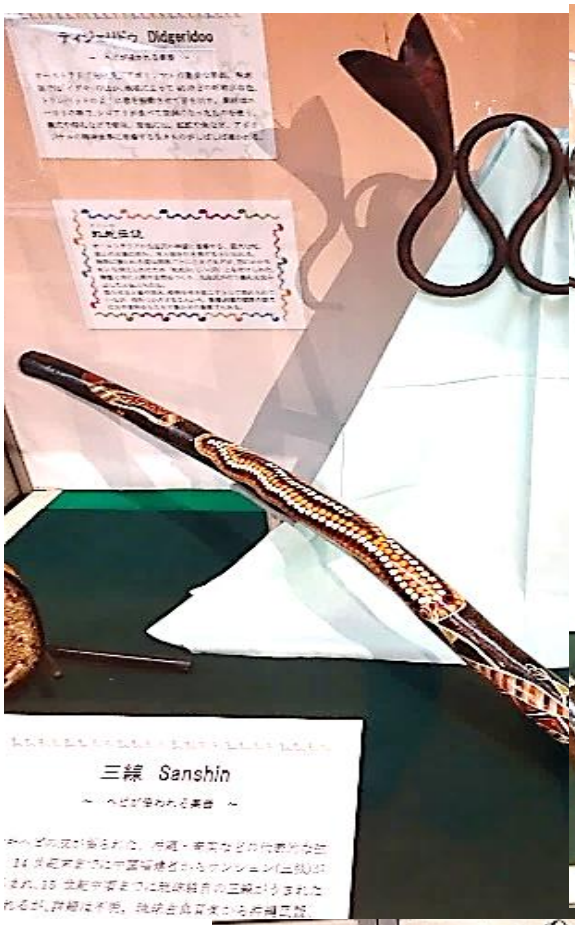
ウォーター・ドラム

51

46

タンザニアの楽器

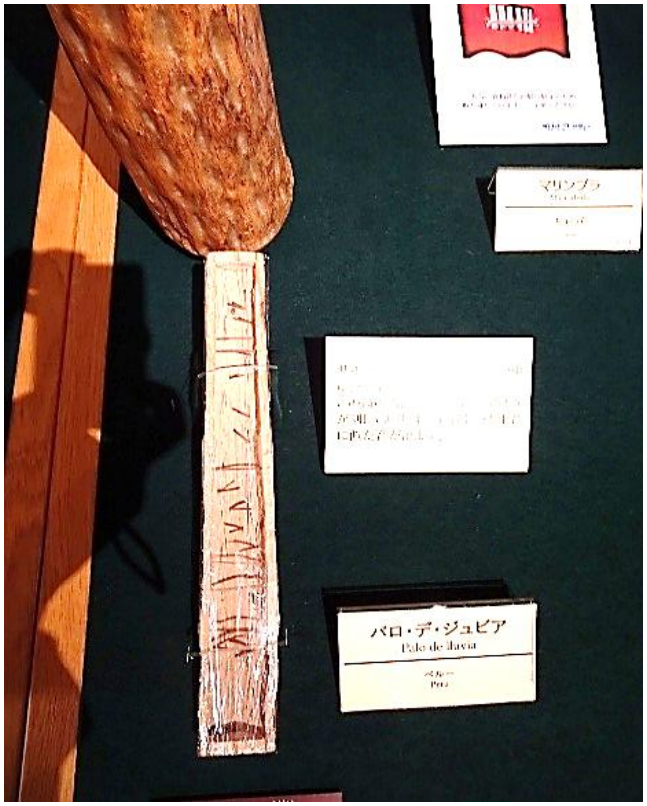


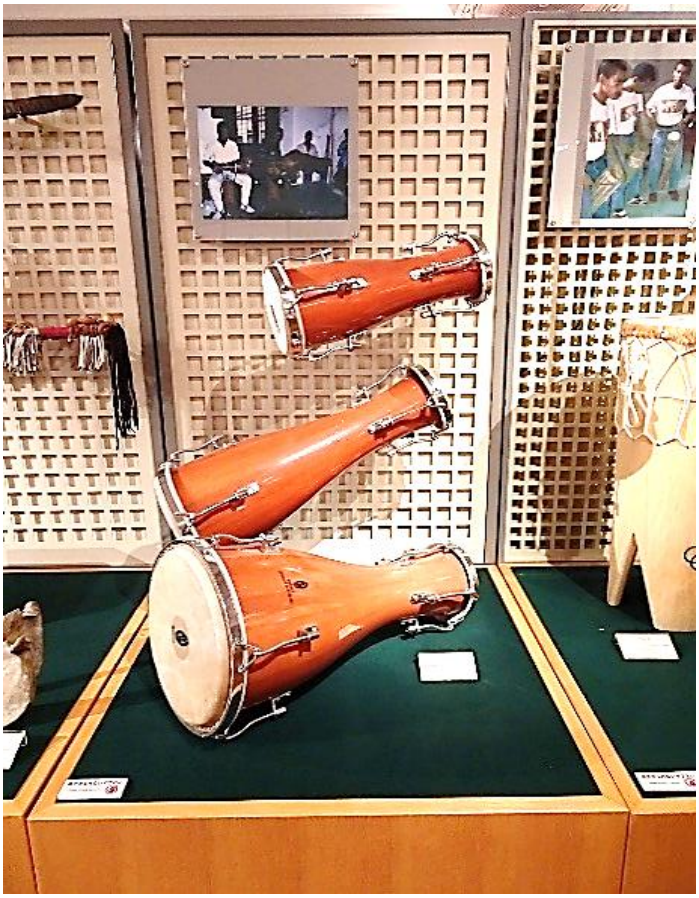

ディジェリドゥ Didgeridoo
三線 Sanshin

ナガファニ Nagphani
プーンギー Pungi

コラ

43


マリンバ
パロ・デ・ジュビア
Palo de Javia
ペルー
Peru



大倉式尺八 着想から試作へ

喜七郎は事業の傍ら音楽のパトロンとしても活躍しました。とりわけ尺八を愛し、当事の雑誌でも「喜七郎は尺八がうまい」と紹介されています。

大正 12（1923）年 1 月に「楽器としての尺八改良意見」という論説を雑誌『三曲』に発表し、尺八を改良する考えを示しました。内容としては、

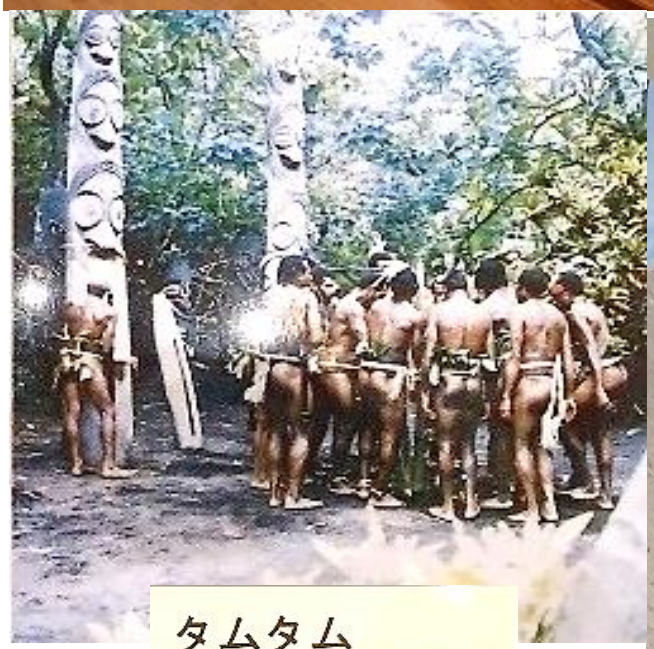
・竹で作られた尺八の、自然の音色の良さを否定するものではないが、自分としては尺八がどのように鳴るのか、楽器として物理学的に研究する必要があるように思う。
・メリの音量が、そうでない場合と比べて小さくなるために、音量が不揃いになることを解消し、西洋の十二音律を平均的に鳴らすことができるのを理想としている。

ということでした。

彼は研究を続け、同年 4 月には尺八を改良した「大倉式尺八」の披露会が行われました。

「尺八歌口装置」の特許広告（大正 13 年 8 月出願）に掲載された挿図にあるキー付きの尺八がその楽器と思われます。5 孔であった尺八の指孔を増やして、音域を広げるために、フルートのベーム式キー装置を取り入れたのです。本体の材質も竹から金属に変更された可能性が高いと思われます。

その後関東大震災や父喜八郎の死去により楽器改良もしばらく中断しますが、昭和 6（1931）年 5 月に「立笛指掛装置」の実用新案出願、昭和 10（1935）年 5 月に「楽器改良研究会」が開催され、新楽器として初めて「オークラウロ」の名が公表されました。



タムタム

ヴァヌアツの割れ目太鼓。世界でも最大級のものです。地面から垂直か斜めに立ちます。ナサラとよぶ聖地（儀式や祭りをする場所）に立っています。上部には精霊の顔の彫刻がついています。家を建てたときのお祝いや葬式など、いろいろな儀式で、また通信のために演奏します。